

授業改善推進プラン<図画工作科>

図画工作科における昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<p><u>〈知識及び技能〉</u></p> <p>○用具や材料に関する知識や経験を基に、適切に扱ったり総合的に生かしながら表現に生かしたりすることができる。</p> <p>○色や形に対する感覚が豊かであり、動きや奥行き、バランスを感覚的に理解している児童が多い。</p> <p><u>〈思考力、判断力、表現力等〉</u></p> <p>○与えられた題材に対し自分なりの主題を見付け、どのように表現するかを考えることができる。</p> <p>○材料の特徴や偶然の表現などから発想を生み出したり、見たことや想像したことを表現に結び付けたりすることができる。</p> <p><u>〈学びに向かう力、人間性等〉</u></p> <p>○つくりだす喜びを味わいながら進んで活動に取り組もうとする。題材の枠組みを超えて表現を深めようとする児童もいる。</p>	<p><u>〈知識及び技能〉</u></p> <p>●大規模校であるために、活動が小さくまとまりがちである。手や体全体を働かせながら表現する経験を含め、色々な活動に取り組むことができるようにしたい。</p> <p>●中学生に向け、カッターナイフや彫刻刀、電動糸鋸などの木工用具に関する技能を確かなものにする必要がある。</p> <p>●感覚や行為、感触などから表現に結び付けるような経験が少ない。</p> <p><u>〈思考力、判断力、表現力等〉</u></p> <p>●高学年を中心に、周りを見すぎる児童が多く、自分が上手にできる範囲のことにしか挑戦しない雰囲気がある。</p> <p><u>〈学びに向かう力、人間性等〉</u></p> <p>●高学年を中心に、表現に対して消極的になる児童もいる。</p>

<具体的な授業改善策>

<p><u>〈知識及び技能〉</u></p> <p>◎発達段階にあわせて、学年ごとに計画立てていろいろな材料・用具、技法を経験することができるような題材計画を行う。</p> <p>◎けがをしない・けがをさせない事が重要であることを念頭に指導を行う。初めて使う用具がある時には、その用具の危険性を教えた上で、安全な使用の仕方を指導する。</p> <p>◎特に中学年に関して感覚や行為、触感に訴える材料を使った題材を進んで展開していく。</p> <p><u>〈思考力、判断力、表現力等〉</u></p> <p>◎高学年での題材を中心に、創意工夫の余地を多く含ませるようにすることで、一人一人の表現に幅をもたせ、「上手でなければならない」といった考え方から離れられるようにする。</p> <p><u>〈学びに向かう力、人間性等〉</u></p> <p>◎高学年の活動にあたり、児童が題材の必然性を捉えられるようにすることで、学びに向かう意欲を引き出すようにする。</p>
--